

## SGH企画 キャリア教育事業「未来創造II」先輩を囲む会

「同窓の先輩から研究や職業、学生時代の思い出等、様々な話を伺い、自身の将来や生き方について考える機会」にするために、お忙しい中、多くの先輩が関高に来てくださいました。現場の生の声を聞くことができ、生徒たちは興味津々、熱心に聴き入っていました。

**対象：2年生**

**日時：1月28日(木) 6・7限(14:15～16:05)**

**講師：第一線で活躍する関高出身の社会人の先輩方(順不同)**

1	足立陽一郎氏 (鵜匠)	高校45回生
2	須田 暁世氏 (アクアトトぎふ、水族館学芸員)	高校59回生
3	中村 亜美氏 (東海中央病院、看護師)	高校62回生
4	栗山 圭介氏 (イベントプロデューサー、雑誌編集者)	高校33回生
5	丹羽 康則氏 (自治医科大学講師、麻酔科)	高校41回生
6	畠山 裕康氏 (東北大学助教、細胞生理学)	高校49期生
7	亀山 雅弘氏 (中濃消防組合)	高校44回生
8	早川典雄氏 (株式会社セイノー情報サービス、取締役)	高校31回生

### 各講師の講義内容と生徒の感想

#### 1 足立 陽一郎氏 (鵜匠)

##### ■ 講義の内容

小瀬鵜飼500年の歴史・伝統を継承していくことの大変さやその喜びを、様々な経験を元にして話して下さいました。鵜も人間と同様で、愛情を持って育てること、社会に出るまでにたくさんの経験を積むこと、人との縁を大切にすること等、近い将来、社会に出て大人として生きていく上で大変貴重な話をして頂きました。

##### ■ 生徒の感想

- ・「仕事をする」というと企業で働くことをイメージしていましたが、鵜匠という歴史ある仕事を引き継ぐことの大切さを知ることができました。鵜との関わり方、小瀬の鵜飼と他の鵜飼との違いなど、なるほど!と思う新しい情報を得ることができ、楽しい50分間でした。
- ・自分は関市民であるにも関わらず、鵜飼のことは知らないことばかりでとても刺激のある話だった。500年の歴史があることに驚き、興味を持ったので、1回実際に小瀬鵜飼を見てみたいと思った。

##### ■ 講師の先生から、関高生の印象

- ・まじめで言葉遣いもしっかりしていましたし、質問も的を得ていました。

##### ■ 講師の先生から、生徒に向けて一言

頑張ってください。

興味があったら、鵜を見に来てください。



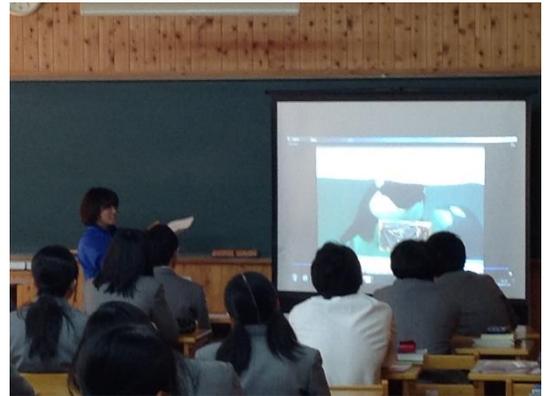
## 2 須田 暁世氏（アクアトトぎふ、水族館学芸員）

### ■ 講義の内容

水族館にいる生き物、自分の高校時代、大学時代の研修の様子など、高校生の頃から今に至るまでの経験を、豊富な写真とともに話していただきました。

現在アクア・トトで働いている人が実際にどこの大学を出ているのか、どのような資格を持っているのかなどとても具体的に、「高校生の頃、もっとしっかり勉強をしていたら、私にもこういう大学の選択肢があったのかなと思います。」という言葉は、生徒の心にも強く残ったようです。

大学時代には、その学部の特性から、海にでて実習をすることも多く、その経験全てが、今の仕事にも生かされているそうです。また、その後の水族館へ就職することの難しさや、「生き物を飼育し、お客さんに見せる」だけが水族館の役割ではないことなど、「働く」ということの大変さを語られました。しかし全ての根底には「生き物が好き」「水族館が好き」という先生の想いがあり、水族館愛溢れる講演となりました。



### ■ 生徒の感想

- ・「好きなこと」の幅を広げるのに損はない！基礎学力は進路の幅を広げる！
- ・自分の好きなことに関わる仕事をしているところが素敵だと思った。
- ・色々な挫折を経験していたけど、そのことを全て良い経験だったと言っていて、すごいなと思った。私も後悔のない進路を選ぶように好きなことにどんどん挑戦していきたい。
- ・水族館というのは、人に見せることが仕事だと思っていた。しかし、生き物の生態系を守る研究・活動にも力を入れていることを知って感動した。
- ・勉強だけでなく趣味や今やっているすべてのことが将来につながっていることが知れてよかった。
- ・学芸員にとって必要な資格、リアルな就職事情、大学選択へのアドバイスなど幅広く教えていただいてとても役に立った。自分の進路に直結する内容であり良かった。

### ■ 講師の先生から、関高生の印象

- ・真剣に話を聞いてくれる学生が多く、話しやすい環境だった。講演後質問を頂き、時間の都合もある中熱心に来てくれたことをうれしく思った。

### ■ 講師の先生から、生徒に向けて一言

好きなことに気付いたらチャンスだと思います！  
どんなことでも続けると、きっと役に立つと思います！

### 3 中村 亜美氏（東海中央病院、看護師）

#### ■ 講義の内容

看護師の仕事は生と死に向き合う仕事であるからこそ、責任もありやりがいもあるというお話をして頂いた。聴講したほとんどの生徒が看護師や医療関係に従事したいという希望を持っており、直接看護師の方からお話を聞く貴重な機会となった。現在は呼吸器科と末期がんの緩和療法に携わっておられる。



高校時代の入院や祖母の看護をきっかけに、患者やその家族をそばで支える看護師への憧れから看護師を目指すようになった。高校時代は吹奏楽部に所属し勉強との両立に悩み部活を辞めようと思ったこともある。しかし最後までやり遂げたことが看護の現場で辛いことや嫌なことがあっても投げ出さず頑張れる基盤となっている。受験勉強は模試の復習や学校の教材を繰り返し学習した。国公立の推薦試験の面接では高校時代に頑張ったことを聞かれた。自信をもって自分をアピールできるものを高校時代にしておくことが大切である。小論文では社会問題に関して自分の意見を問われる。ニュースや新聞などでいろんな知識を蓄えることが大事である。大学は3年と4年時に実習があり、国家試験の勉強が大変である。医療は進歩し続けるため、看護師になってからも日々学んでいかなければならない。同じ病気でも合併症など個人によって治療も異なる。末期がん患者の病棟では、死に向き合い揺れ動く患者をどう支えていくのか難しい現場である。医療の現場は冷静な判断力、決断力、医療チームや患者とのコミュニケーション力が必要となる。

亡くなった患者の日記に「いつも優しく元気にお世話してくれてありがとう」という感謝の言葉がつけられていた。看護の仕事は大変ではあるがやりがいのある仕事であり、患者のために精一杯のことをしてあげたいという熱い思いが看護を目指す生徒を奮い立たせる講義であった。

#### ■ 生徒の感想

- ・看護師の仕事は想像以上に大変な仕事であると実感した。将来看護師として働くためには冷静な判断力やいろんな知識を持つことが大切だと思った。
- ・看護師は患者やその家族に一番近い存在だから、日々の看護や治療を支えられるかけがいのない仕事だとわかった。ずっと勉強していくことが大切なので、学習習慣をしっかり身につけて頑張りたい。
- ・自分の決めたことは最後までやり遂げることが大切だと思った。あきらめないことを身につけることで仕事をするようになって大いに生かされるのだとわかった。
- ・看護師への道のりは大変だと思った。部活などを言い訳に妥協せず頑張って夢を叶えたいと思った。
- ・「看護師になったのがゴールじゃない」という言葉が心に残った。

#### ■ 講師の先生から、関高生の印象

- ・真剣に話を聞いてくださる生徒の方が多かったです。とても話しやすい雰囲気でした。先生もいて進行の手助けをしていただき助かりました。

#### ■ 講師の先生から、生徒に向けて一言

進路や将来が明確にならず悩むこともあるかもしれませんが、今高校生活を十分に満喫してください。勉強・部活など頑張ってください。

そして、今回の話が皆さんの進路決定の何かの参考になれば嬉しいです。

#### 4 栗山 圭介氏（イベントプロデューサー）

##### ■ 講義の内容

ご自身の豊富な経験から、「人生で大切だと思うこと」を軽妙な語り口でお話いただきました。人と人が出会ったときに、相手と心を通わせることが大事だと考えていらっしゃる、関高生ともすぐに「何を聞きたい？なんでもいいよ」と質問を促し、質問に答える形でご自身の経歴から学んでこられたことをお話してくださいました。

「100点と100%は違う」「失敗から学ぶことがある」「大人になるとは、相手を尊重できること」など多くの名言がありました。順調な時もそうでない時も、その時その相手に一生懸命対応していらっしゃる栗山先生ならではのエールをいただいた貴重な時間でした。



##### ■ 生徒の感想

- ・ 社会に出た時にどう生きていくのか、栗山先生の人生談を聞いて参考になった。
- ・ 自分の夢について、もう少ししっかり考えようと思った。
- ・ どの大学を出ても、どの学部で学んでも、将来はいろいろな道があると分かった。
- ・ 辛い時期を乗り越えてこそ、人は成長すると思った。
- ・ 「ノリは人と人をつなぐスパイス」、コミュニケーションが大切と分かった。
- ・ 現実的な話を聞くことができ、将来のために今から努力しておくべきだと思った。
- ・ カッコいい生き方をするには、見えない努力が必要だと思った。
- ・ やりたいことを言うだけでなく、実行したいと思いました。決意ができました。
- ・ どんなに大きくても、それが実際かなうかどうか分からなくても、夢をもつことは大切なことだと思った。
- ・ 生き方に憧れました。
- ・ フランクな感じで話してくれたが、軸のある考え方の人だと感じた。

##### ■ 講師の先生から、関高生の印象

- ・ 物足りなさを含みつつ、カワイかった。
- 授業後に話しかけてくれる生徒が多く、10代らしさを感じました。

##### ■ 講師の先生から、生徒に向けて一言

君にしかない生き方をしてください。  
悩みは、君をきっと大きく成長させてくれます。  
カッコつけなくていいからね！

## 5 丹羽 康則氏（自治医科大学講師、麻酔科）

### ■ 講義の内容

ご自身の中学時代から現在に至るまでの体験を丁寧にお話して頂きました。

医師には「産業医」、「行政医」、「研究医」、「臨床医」などがあり、普通お医者さんといわれているのは「臨床医」のことである。

医学部の受験は他の学部と異なり職業が決まるから、目的意識をしっかり持って望むこと。先生自身は中学時代に目標を決め、計画的に努力をしてきた。また、高校・大学時代にたくさんの英単語を覚えてきたが、いまでもそれが続いている。医師になってからも勉強ばかりで、日本の医療を発展させていくために貢献していることが覗えました。また生徒達のために、勉強や受験のためにお薦めの本を何冊も紹介して頂きました。

医師の仕事は楽では無く、今でも平日0時前に家に帰ることが無い。現在も研修医より自分は忙しい。しかし、自分は「与えられた仕事は断らない」ことをポリシーにしている。この仕事を断ったら、次には仕事来ないかもしれない。

現在医療現場では「チーム医療」が当たり前であり、1人の患者さんに対して、色々な分野の人が関わって治していく。孤島を除き、地方においても現在はチーム医療が浸透している。

など現在の医療の状況について丁寧に話していただきました。



### ■ 生徒の感想

- ・現在の医療制度や、求められていることを現場で働いている意思から直接聞けて、なすべきことをより深く理解できた。
- ・人生は選択の連続で、自分に頼まれた仕事を断ると、次の仕事来なくなるというシビアな世界を知った。それは仕事に就いてからとかでは無く、今の学校生活の中でも相手との人間関係を築く上でとても大切なことだと思いました。
- ・自分たちのよく知っている医師は臨床医であり、他にも多くの医師がいると分かりました。
- ・昔とは違って今は医療の現場で様々な役職の医療従事者と連携しているのが本当によく分かった。
- ・丹羽先生は中学の時には将来の目標を決めていて「志望校に受かるために3年間何をするのか目標を立てていてすごいと思った。僕もあと1年くらいしか無いけど、この1年間は有意義にできるよう志望大学に受かるように目標を立てようと思った。
- ・自分の進路を実現するには相当な勉強量や計画性が必要なことが分かりました。自分の進路実現のために努力を重ねていこうと思いました。

### ■ 講師の先生から、関高生の印象

- ・6, 7限の遅い時間にもかかわらず、ちゃんと聞いていたと思います。

### ■ 講師の先生から、生徒に向けて一言

志望校合格に向けて頑張ってください。

## 6 畠山 裕康氏（東北大学助教、細胞生理学）

### ■ 講義の内容

最初は自己紹介として、現在東北大学で「糖尿病」に関する基礎研究に従事するまでの経緯を話されました。

「生きている」ことを「みて・はかる」ことを研究の主体とされていて、「生きている」とは生体・細胞・細胞の中身が「動いている」ことと捉え、実際に「健康な状態の細胞」に動きがあるのに対して、「糖尿病の細胞」は動かなくなっている動画で見せていただきました。

細胞の中身の動きを「みて・はかる」ために「蛍光」を利用した蛍光顕微鏡を紹介され、その仕組みや簡単な蛍光顕微鏡なら自作することもできるということを教えていただきました。また、GFP（緑色蛍光タンパク質）などを用いて、細胞内の分子の動きも「みて・はかる」ことができるようになったことや研究対象は生物だけど、研究には物理や化学、数学の言葉が必要であって、大学の研究が「学際」という複数の学問領域にまたがっていることを話されました。最後に今の高校生の進路選択について大事こととして、大学の研究が複数の学問分野にまたがっている場合が多いことから「この分野は駄目」というような消去法的な進路選択よりも、漠然とでいいから「こんなことをやってみたい」という自分が興味を持つ分野のきっかけを作ることが大切だということを教えていただきました。

### ■ 生徒の感想

- ・Hela 細胞とか、細胞の動いている＝生きている様子の動画などとても面白く興味深い内容でした。自分は生物系の学科に進みたいと思っていますが、大学でやりたいことが変わることが多いと聞き、今のうちにいろんな知識を身につけておきたいと思いました。
- ・大学でとある学問について勉強したからといって、必ずしもそれに関係した仕事に就くとは限らないということを知ることができてよかったです。また、学ぶためには主となる分野以外にも多くのことを知って活かすことができなければならないということも今回の話で知ることができてよかったです。
- ・糖尿病研究における最先端の技術を教えていただきました。「生きる」ということはどういうことなのか、それは「動いている」をコンセプトに顕微鏡で見た細胞の動きやマウスの心臓の動きを見せてくださったので、とてもためになりました。そして「学際」といって、様々な学問にまたがる分野の話もしていただき、文系だからといって数学無しでは勉強ができないと改めて知りました。これをきっかけに文系科目以外も力を入れて頑張りたいと思います。
- ・自分は将来病に係る研究、薬に関わる研究をしたいと思っていますので、今回の話はすごく面白かったし興味を持ってました。今は学際という普通に一つの学部、学問にこだわらないということがたくさん選べるということに改めて気付けたので、これから真剣に将来を考えていきたいと思いました。

### ■ 講師の先生から、関高生の印象

- ・普段耳慣れない内容の話だったと思いますが、反応も良く、楽しく講演させていただきました。

### ■ 講師の先生から、生徒に向けて一言

大学での研究がどういうものか、少しでも分かっていただければうれしいです。  
楽しい学生生活を過ごしてください。



## 7 亀山 雅弘氏（中濃消防組合）

### ■ 講義の内容

#### ○自己紹介

高校当時の部活動や現行の制服に至るまでの過程などをお話になった。大学入学時には教師を志していたが、阪神・淡路大震災を経験して救急救命士になって人々を助けたいと決意した。

#### ○消防士の業務

消防・救急・予防とあるが現在求められている能力は、体力は当然のことながら幅広い知識と高いコミュニケーション能力も必要とされている。

#### ○先輩として

君たちが助けを求めるような時があったら、自分たちが必ず助けに行くからあきらめずに生きてほしい。また、そのための道具や法律、経済の仕組みなどを後輩たちが作りだしてくれたら嬉しい。



### ■ 生徒の感想

- ・人の命を助けるのに自分の命をかけている方々の話を聞いて、消防関係の話を聞いて自殺する人はなんにもならないと思ったし自分の命を大切にしようと思いました。
- ・人のためにできることがいつか自分のためになることだと言われたこと、なにがあっても生きることあきらめないことが本当に大切だと言われたことが印象に強く残っています。自分の将来の夢に向けて、自分がどのような気持ちで向かっていけばいいか考えるいい機会になりました。

### ■ 講師の先生から、関高生の印象

- ・こちらのあまり面白くもない話をしっかりと聞いて頂けてありがたいくらいでした。話しかけたときにも、しっかりと反応してくれて良い生徒ばかりだと実感しました。ただ昔からそうだと思いますが、おとなしい感じがありました。

### ■ 講師の先生から、生徒に向けて一言

人生は一度きりです。  
悔いの無い様に生きて下さい。

## 8 早川 典雄氏（株式会社セイノー情報サービス）

### ■ 講義の内容

「先輩サラリーマンが君の『今日からの物語』を考える～関高生は、社会で、文理のブリッジになれ～」と題して、社会の現状などを踏まえて、求められる人材とはどのようなものか話していただいた。

#### ①自分の履歴

体育館わきの水道の水を飲むと女の子しか生まれないという関高校の伝説などを紹介しながら、教員を目指していたものの大学受験で挫折し、卒業後10年におよぶ学生生活の中で自分の生きる道を模索してきた半生を振り返る。

#### ②情報技術の可能性

社会を動かす力は、人、モノ、カネ、情報、時間であるが、情報と時間はうまく使えばいくらでも有用性が広がる。セイノー情報サービスはまさに、情報技術を駆使して効率的な物流を管理することが仕事である。



#### ③社会の現状

日本は人口減少に向かい、これからは深刻な人手不足の時代を迎える。君たちにかかる期待は大きく、君たちにとってはチャンス時代ともいえる。

#### ④求められる人材・後輩へのメッセージ

自分を高める時間を1年に1000時間以上（1日2.7時間）確保しよう。1000時間が君の人生の明暗を分ける。

今まではT型人間が求められてきた。T型とは、幅広い知識と、深い専門性をひとつ持っていることである。しかし、これからはΠ（パイ）型人間が求められる。幅広い知識と、相反する2つの専門性を有していなければならない。

やりたいことをやるのではなく、やるべきことをやりましょう。

### ■ 生徒の感想

- ・興味ある分野（IT）について理解を深めることができ、社会人に必要なことも学ぶことができた。
- ・高校のうちに自分が何に興味があるのかをはっきりさせて、大学生になったら一つでも自分のストロングポイントを作れるようにしたいと思いました。
- ・関高校での思い出は興味深かったです。私も、自分の力で時間や情報を無限のものにしていきたい。
- ・まずは関心を持つことから。一つの分野を自分の専門とできるように頑張りたい。

### ■ 講師の先生から、関高生の印象

- ・まじめ。理解度が高い。（質問の内容から分かる）

### ■ 講師の先生から、生徒に向けて一言

今後の目標を明確にして、取り組んで下さい。